

記念講演 「寄宿舎がある学校の魅力と役割 ～子どもたちが語っていること～」

猪狩 恵美子さん

寄宿舎のある学校の魅力は「わかる勉強」「生活と生活リズムの確立」「信頼できるおとな・仲間との出会い」これは、障害の種類や有無に関係なく豊かな子ども時代を保障する土台だといえる。これらを貫く大切な軸は民主主義。教職員と子ども、子ども同士、そして教職員間の互いを尊重し合う民主的な関係によって、「場」と「機能」に大切な魂が込められてきた。そこで生まれる信頼のなかで子どもの自分づくりを考えてみたい。

寄宿舎という場所は生活訓練であるとともに、こどもたちに「できる」ということをどう増やしていくかが大事である。指導する側も一人ひとり持ち味をもちながら実践力を高めていく必要がある。寄宿舎があればいいというのではなく寄宿舎の中身がこれから問われていくのではないだろうか？寄宿舎の魅力とは？学校教育の一貫として、寄宿舎の意味というのは放課後また24時間で生徒を見守りとても大事な役割を担っている。社会的に発信していくということが今後必要ではないだろうか？キーワードは、

「いまを楽しむ。」

子どもたちにとっていまを楽しむ経験をどれだけ豊かにするか、将来を生きるということにつながる。どういうふうにこどもたちを育てていくのか考えなくてはならない。失敗することを恐れない、失敗することを気にしている子どもたちは多いのではないだろうか？失敗から学ぶ、みんなでその失敗を共有し、つまずいたということを大事にしていくことが結果につながっていくと感じている。

「じぶんづくり」

こどもたち自身が挑戦していくこと、支える大人と支える仲間がいることは必要不可欠である。わたしたちの役割はじぶんづくりをスタートさせていく、支えていくことではないだろうか？今まで自分づくりができなかった子どもたちが寄宿舎にきて、自分はこれでいいんだと思えたり障害を理解し受け入れたりすることがとても重要である。自分を認めることがスタートである。寄宿舎が果たす役割とは、安心して生活できる場所また、子どもたちが主人公であるという場所であることを実現化していくこと。家族が安定する、家族一人ひとりの自己実現や家族の生活をどう支えていくか？貧困の問題を含め、誰もが利用できる心地よい場所としてこれからの寄宿舎を考える上で大事にしていってもらいたい。